

令和2年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	起業・融資・経営分析のワークショップ型実践的学習	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	経法学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	山沖義和 (経法学部)	
取組の目標	<p>従前のロールプレイング(模擬体験)型教育プログラムとは別に、新たに<b>起業・融資と経営分析に関してワークショップ型の実践的学習を導入し、受講生同士がディスカッションを通じて「現場ならではの」の課題に取り組む教育プログラムを提供し、質・量の充実を図る。</b></p> <p>また、その際、ICTを活用し、オンライン講義のほか、データ分析を行うことによって教育効果を高める。</p>	
<p>1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)</p>	<p>① ロールプレイング型である一部の実習系科目を対象に、ワークショップ型の教育プログラムに組み替えるとともに、一部の科目についてはプログラムの内容に修正を加えた。</p> <p>(a) 公認会計士実習の一部(起業パート)に金融パートを統合し、ビジネス実習として改編。(公認会計士実習の残り部分は同名の科目として独立。)</p> <p>(b) 税務実習にワークショップ型実践的学習を導入。</p> <p>② 実習系科目だけでなく、講師による講義、実務家による講義を組み合わせ、すなわち理論と実務を融合させることにより、教育効果を高めた。ただし、新型コロナウイルス感染症の流行により実務家による講義の一部を実施できなかった。</p> <p>(a) 簿記会計・経営学・金融論等の講義、実務家から見た経営学・経営情報分析論等、ビジネス実習の組合せ。</p> <p>(b) 税法関連科目・財政関連科目の講義、租税法実務・行政実務等、税務実習・政策企画実習等の組合せ。</p> <p>③ ICTを活用したオンライン講義・事前事後学習のための環境(ICT 機器の充実等)を整備した。</p> <p>④ 併せて、ロールプレイング型の教育プログラムを見直し、その充実を図った。</p>	
<p>2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)</p>	<p>a. 達成できた b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった</p>	<p>(評価理由)</p> <p>① 実習系科目の内容を抜本的に見直し、ロールプレイング型に加えて、ワークショップ型の教育を行うことによって、学生の教育効果を高めることができた。なお、見直しに当たって、受入機関と綿密に協議を重ねた。</p> <p>② 学習の体系を整備し、講義形式・実習方式、教員主導・実務家主導など多様な教育方法を組み合わせることによって教育効果を高めることができた。ただし、新型コロナウイルス感染症の流行のため、前期に開講する予定だった実務家による講義を中止し、完全な形で実施すること</p>

ができないという制約があったものの、その範囲内で可能な教育プログラムを提供できた。なお、学習体系の見直しに当たって、受入機関と綿密に協議を重ねた。

③ 東京拠点などの ICT 機器の充実を図り、遠隔地からのオンライン講義を実施するための環境を整備できた。また、実習や実習に関連したインタビュー等をビデオカメラで撮影し、事前事後学習を行えるようにして、教育効果を高めた。

④ こども法務実習のための小道具を充実させ、児童虐待の実態把握が容易になり、教育プログラムの改善を図った。

(今後の展望)

① ワークショップ型教育プログラムの充実を図るとともに、高大連携も推進していく。

② 新型コロナウイルス感染症の流行のため 2020 年度に一部しか実施できなかった経営情報分析論等の講義を完全に実施し、見直しを図った学習体系の全体を実施していく。

③ 充実・整備を図った ICT 機器を活用して、東京などの遠隔地からのオンライン講義を行うとともに、新型コロナウイルス感染症の流行のために実施できなかったデータベースに基づく分析処理を授業に取り入れる。